

山行報告(2018年3月7日号)

■会津駒ヶ岳 中門岳・山スキー

《山行日》2018/3/3(土)

《参加者》青木(友人)、山崎(報告:山崎)

《日程》滝沢登山口 6:00～会津駒ヶ岳 10:05～中門岳 10:40/11:40～御神楽沢 1596P11:50/12:05～大戸沢岳 1918P13:50/14:15～下大戸沢 14:40～葎ヶ平 14:50/15:40--滝沢登山口 15:55

《概要》2本のスティープラインを滑る

《内容》三岩岳は雪が不安定と判断し、中門岳ルートに向かうことにしました。滝沢登山口から会津駒ヶ岳に向かいます。登山者のトレースはあるが前日のもの、軽いラッセルを2人で交替しながら登りました。前日の登山者を1800m付近で追い抜きます。森林限界から遠くにうっすら見える富士山を確認。約4時間で会津駒ヶ岳山頂に到着。改めて快晴の喜びと、新潟、東北方面に広がる白い山々に感動しました。それでは先を急ぎます。天空の稜線へ。私にとってこれから先は未踏の地、冒険の始まりです。シール装着のまま進みます。意外に早く中門岳に到着しました。大戸沢岳、三岩岳と、いつもと違う景観はとも新鮮で、シビレが止まりません。駒ヶ岳から見るとメローに見える斜面も、覗いてみると40度を超える斜面で複雑な地形、ガイド役の青木君が雪をチェックしOKとのこと。滑走ラインが決まったところでドロップイン、パウダーを意味する爆煙が上がります。バンクありスパイン、エアポントありの、今までの技術を表現できる斜面でした。頭がおかしくなりそうほど爽快です。余韻に浸りながら登り返しポイントまで落とします。進まないムジナクボ沢の登り返し、振り返るとシュプールの刻まれた斜面が一望できました。ここは日本じゃない、何時までも見飽きない景観に、一つ間違えば生還できないのに、森の雰囲気はほのぼのとさせてくれました。

えっちらおっちら、ホームフィールドの1918Pに帰還、ホッとしました。落とすルートを確認すれば、諦めていた雪質も希望もてる状態じゃないですか、バスの時間を確認してドロップイン、こちらはクリーミー、走る走る。沢まで落として行きます。沢沿いの雪も走るザラメ、最後は水が浮いてきましたが、楽しい滑走となり、葎ヶ平のバス停に到着となりました。

■那須岳日の出平・山スキー

《山行日》2018/2/10(土)

《参加者》深澤、鈴木、松本(友人)、山崎(報告:山崎)

《日程》沼原林道ゲート 8:05～沼原駐車場 9:50～JAふれあいの森 10:00/10:25～日の出平 1775P 11:45/12:25～JAふれあいの森 12:45～沼原駐車場 13:00～沼原林道ゲート 13:15

《概要》地元の山で山スキー

《内容》ザックを忘れた失態により1時間遅れのスタート。沼原林道入口のゲートからスタートします。林道をショートカットしながら進みますが、取付きのJAふれあいの森までは遙か先。雪はバリバリ沈みません。歩くのには楽ですが、滑るのには絶望的な雪質です。白笹山への分岐の先の広大な雪原がJAふれあいの森、ここから見える大倉山は見事です。そしてここから登りの本番、綺麗で雰囲気の良いダケカンバの森を登ります。雪もサラサラの雪質に変わりパウダーの予感がしてきました。真っすぐ登ると藪につかまるので、左側の沢形状沿いに広がる疎林を繋げて登ります。高度を上げるにつれて、遠方の山々まで見え

てきます。来て良かったなと思わせる景色が広がっていました。目的地は日の出平の1775P、茶臼岳と南月山が見えてきた所です。ようやく長い登りの終わりです。長かった。こんな天気恵まれたのは4年ぶり、十分に景色を楽しんだ所で、雪質が良さそうな沢名川源頭のバーンに滑り込みます。意外と楽しめるパウダーでした。気持ち良い。今年は沢沿いの段差が高く3ヶ所ぐらい飛びました。沢を右側にトラバースして、ふれあいの森が見えた所が雰囲気抜群の最後の斜面となります。雪質は重くなり怪しくなってきましたが、気持ち良く滑ることができました。後はゲートまで、モービルの跡を辿ったりと、消化試合みたいな感じですが意外と楽しめました。

■那須 赤面山・山スキー

《山行日》2017/1/21(日)

《参加者》東、倉俣(報告:倉俣)

《日程》大田原 7:00--赤面山登山口 8:56～上部ゲレンデ跡 10:00/10:20～山頂 11:35/11:40～滑走?～スキー場跡TOP～登山口 14:00--大田原

《概要》冬の那須の景色を楽しむ

《内容》午前中天気が持ちそうなので、冬の那須の景色を見ようと赤面山に行ってきました。雪は少なく、上部のゲレンデ跡くらいしか滑れませんでした。冬の那須の景色を見て良い汗かいてきました。山頂付近の霧氷が青空にはえて綺麗でした。下山中に何でもない斜面でスキーが抜け、コケてしまいました。その時スキー先端が雪面にささり、右膝と右足首を強くひねってしまいました。最後は、雪が舞い始める中ゆっくり歩いて下山しました。油断禁物を実感しました。